

GAJ News

関東地区交流会を開催 交流拡大や発信力強化を求める声

12月13日に、都内で関東地区交流会を開催しました。この交流会は8月に京都で開催された西日本交流会に続くもので、環境NGO/NPO向けに活動を紹介するとともに、話題提供を通して意見交換の場として企画したものです。

古瀬・事務局長の進行で、まず山崎・幹事と藤村・共同代表から設立の経緯とこれまでの活動経過について報告を行いました。

話題提供①として、気候ネットワーク東京事務所長の桃井さんからCOP21パリ会議の報告とこれからの活動の方向性について話されました。ご承知の通り、12月13日未明に「パリ協定」が採択された直後のホットな話題提供で、地球の平均気温上昇を2℃未満にするためすべての国が参加して削減目標を作り報告が義務づけられたことや石炭火力の問題点などについてお話しいただき、その後質疑と今後の活動についての意見交換を行いました。

話題提供②では、原子力資料情報室共同代表の伴さんから核廃棄物問

題と原発再稼働問題について話題提供して頂きました。①と同様に、質疑と意見交換の予定でしたが、原発再稼働をめぐるのは阻止を求める声が出ていることから、質問がたくさん出て、意見交換には至りませんでした。

最後に、グリーン連合に期待することとして、次のような意見が出ました。

「東京と地域では意識のギャップもあり、それを埋めるためにも、もう少しわかりやすい言葉で伝えていく必要がある（共通言語が必要）」

「若い人にも参加してもらえよう、会の持ち方なども工夫が必要」

「農業や森林関係の人との交流も必要ではないか」

「ファンドレイジングのグループなど他の分野の人たちとの交流も必要ではないか」

「そもそもグリーン連合は何をする組織なのか、会員にも明確に伝える必要があるのではないか」

交流会の参加人数は20名程と少数ではありましたが、話題提供の場



面では、経済至上を信奉する人たちにどう働きかけていくか、また原発再稼働の動きをどう食い止めていくかなど、根本的な課題に対する意見も出され、とても有意義な意見交換となり、特に若い方から建設的な意見を頂くことができました。

■ HPから動画で視聴できます。

COP21「パリ協定」の採択を受けて声明を出しました

グリーン連合は、COP21パリ会議におけるパリ協定の採択を受けて声明を出しました。声明は、パリ協定で定められた目標に対して日本政府の定めた削減目標は不十分であり、目標達成のためには、低炭素社会というより、むしろ低エネルギー消費の徹底と再生可能エネルギーの大幅活用を推進する「脱炭素社会」に踏み出すことを明確に示した上で、新しい経済社会を構築する決意が必要であるとしました。そして、そのために全てのステークホルダーの参加と環境NGO/NPOの活用を求めています。詳しい内容についてはHPをご覧ください。



市民版環境白書 グリーンウォッチ編集始まる



グリーン連合が今年5月をめどに出版をめざしている市民版環境白書グリーンウォッチの編集作業が始まりました。

目次案に基づき、幹事メンバーで執筆を分担したり、環境 NGO/NPO に執筆を依頼する形で原稿を寄せていただき、少しずつ整理を進めています。もちろん、市民版ですから政府の環境政策について批判的に評価しつつ、様々な動きを紹介しながら、何が課題で、その解決のために何をしなければならないかを示唆できるような内容をめざしています。

また、グリーンウォッチの出版をきっかけに、行政や国会議員、ジャーナリスト、中間支援組織と連携しながら、社会的影響力の向上をめざすため、地球環境基金に助成申請を行いました。具体的には、全国6か所で学習会兼交流会を開催し、各地の環境 NGO/NPO と交流しながら、それぞれの分野の枠を超えた横断的な連携強化を図っていきたいと考えています。

グリーンウォッチ目次案

- 序 グリーン・ウォッチ出版の目的
 - 第一章 日本の環境政策の課題
 1. 「経済優先」に屈伏した環境政策
 2. ビジョン、戦略なき環境政策
 3. 歪められた環境政策形成の過程
 4. 予防原則
 5. オーフス条約
 - 第二章 当面の主要政策事項の点検
 1. 気候変動とエネルギー
 - (1)COP21 の評価、(2)エネルギーミックス、(3)石炭火力発電所問題
 2. 再生可能エネルギー
 - (1)総論、(2)地域
 3. 原発問題
 - (1)福島原発事故に見る原発の危険性、(2)規制委員会設立と再稼働問題
 - (3)自治体事前了解にみる住民不在、(4)核廃棄物の処理・処分
 4. 化学物質
 - (1)化学物質政策基本法（仮称）の制定を、(2)環境ホルモン、(3)ネオニコチノイド農薬の諸問題、(4)水銀条約と国内法
 5. 廃棄物
 - (1)進まない容リ法改正、(2)マイクロプラによる海洋汚染への対応
 - 第三章 福島
 1. なぜ原発ゼロ社会を目指すべきなのか
 - (1)事故後のエネルギー政策と世論、(2)脱原発の理由 vs. 原発存続の理由
 2. 福島原発事故の被害と政府の対応
 - (1)今も続く被害、(2)無視された「避難の権利」「帰還の権利」
 3. 原発ゼロへの道
 - 第四章 国内外の注目すべき動き
 1. 国内各地の先駆的な事例
 - 他の地域の参考になりそうな事例の紹介（地方行政の実態にも触れる）
 2. 海外の先進的な取組
 - (1)アップル社の自然エネルギー100%への取り組み
 - (2)広がりつつある化石燃料からの「ダイベストメント（投資引き揚げ）」
- ※A5判 200 ページ程度を予定

●新規会員のご紹介

これまでに新しく会員になられた団体をご紹介します。

- ・環境・国際研究所

●幹事の退任について

設立時の幹事として活動に尽力された佐藤潤一さん（一般社団法人グリーンピースジャパン事務局長）が、事務局長退任に伴い、幹事を退任されます。これまでありがとうございました。

会員団体募集中！

グリーン連合では、会員団体および個人サポーター（年会費1口2,000円以上、年間予算規模に応じて設定）を募集中です。たくさんの仲間が加わることで、メリットは大きくなります。ぜひご参加ください。

- ・団体名、代表者名、ホームページ、住所、電話番号、FAX 番号、担当者名、担当者役職、メールアドレス、直近の財政規模をお書きの上、事務局まで FAX またはメールでお送りください。

●グリーン連合事務局

FAX:03-3255-2202 E-mail greenrengo@eco-future.net

ホームページを開設しました！ぜひご覧ください！ <http://greenrengo.jp/>